

# 公益財団法人応用科学研究所

## 令和7年度第3回理事会議事録

1. 開催日時 令和8年3月18日(水) 14:00~15:00
2. 開催場所 公益財団法人応用科学研究所森記念研究棟2階会議室  
京都市左京区田中大堰町49番地
3. 理事現在数及び定足数  
現在数 10名、定足数 6名
4. 出席理事数 9名 (○印はリモート参加)  
(本人出席) 大原 久典、大野 正夫、北野 正雄、久保 愛三、三阪佳孝、成宮 明、  
○引原隆士、松岡 裕明、○山路 伊和夫  
(監事出席) 西 亨、村上 博保  
(議案説明及び報告) 久保理事長、北野副理事長、成宮常務理事、大原常務理事、大野理事  
梶野運営企画室長
5. 議案 第1号議案 『令和8年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込  
の承認』を求める件  
  
第2号議案 『理事の利益相反取引の承認』を求める件

### 報告事項

1. 利益相反取引に関する重要な事実のご報告
  2. 理事の辞任について
  3. 職務執行状況報告(令和7年度第2回)
6. 開会・議長の選出並びに議事録署名人の選出
    - (1) 定足数の確認等  
14:00に成宮事務局長が理事9名及び監事全員の出席を確認し、久保理事長の冒頭の挨拶の後、事務局長から本会議の議事進行及び議案資料について説明があった。
    - (2) 開会及び議長の選出並びに議事録署名人の選出  
定款第46条に基づき久保理事長が議長となり、本会議の成立を宣言した。  
議事録署名人は定款第51条の規定に基づき、久保理事長、北野副理事長、西監事、及び村上監事とし、議案の審議に移った。
  7. 議事の経過の概要及びその結果  
第1号議案 『令和8年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込の承認』を求める件  
令和8年度の事業計画書について成宮事務局長より、また収支予算書と資金調達及び設備投資の見込みについて梶野室長からそれぞれ下記の議案説明があった。  
最初に令和8年度の事業計画書については、まず公益事業1の研究開発事業の基盤研究については、材料評価・開発研究室では材料プロセスに関する研究を、また松浦研究室では4年前に見直した高性能永久磁石に関する新たな切り口での基礎研究を引き続き進め、歯先軟化による歯車長寿命化については事業化に向けて具体的な実験・評価に取り組む。

第1種受託研究では、機械基盤研究施設において、施設発足以来第4弾目となる公募型研究開発プロジェクト「5Xマシンによる超高性能歯車の高能率加工法に関する研究（rIasX4）」の3年計画の最終年に当たり、新しい設計に基づく新型歯車の製作と性能評価に取り組む。また企業からの委託を受けて、希土類系永久磁石の高性能化などの研究課題が進められる。

第2種受託研究は本研究所が委嘱した他大学、高専等の研究者が、企業からの研究費で行う単年度研究で、令和8年度に入ってから委託者が決定されるが、近年の減少傾向の原因と増加に向けた対策を検討する。

第3種受託研究は、公的機関の資金により行う研究ですが、外部公的研究機関の研究分担者としての活動の他、新規に科学研究費助成事業の申請もすすめる。

公益事業2では、従来からの研究成果の実用化と技術指導、超電導技術に関する国際標準化の課題の他に、これまでから行っている試作受注・計測受注を行う他、見学者へのデモなども引き続き実施される。

収益事業では高周波焼入れとプラズマ窒化処理について、受注回復に向けて努力を傾注する。

以上の説明があった。

次に収支予算書の説明があった。

まず経常収益については、収益の柱である加工部門の収益は、本年度は値上げ及び新規需要獲得の成果が出てくるものの本格的な回復にはまだ時間がかかる。また研究開発での収益でも、PN炉電源開発プロジェクトが続くものの、終了するプロジェクトもあり、収益は減少する。事業費について更に見直しを進めるものの黒字予算を組成するには至らない見通しである。収益は、7年度予算から1,335万円減の1億22,342千円とした。材料加工事業収益は、既存顧客への値上げ実現などで13百万円の増加が見込まれるものの、加工研究事業は、新規案件の減少で1千万円減、機械基盤研究事業は、プロジェクト・調査事業の終了で7百万円の減少などによるものである。

経常費用は、収入減少をカバーするために昨年度に引き続き削り込んでいる。大口の費用である、通信運搬費、光熱水料費については、引き続き削減に取り組む。前者については、合理的な運用と顧客からの費用回収とで現場職員を巻き込んで節電・ピークカットに取り組む。給与については、実質賃金の低下を防ぎ、所員の意欲を維持する観点から3%程度の賃上げを盛り込んでおります。これらを合わせた、経常費用総額は1億25,814千円と令和7年度予算よりより17,526円千円弱減少している。以上から当期経常増減額は3,472千円の赤字となる見通しである。これは現状での積み上げた数値であり、加工部門への受注増、研究部門での各種資金の獲得努力によりこの赤字額を1円でも縮小するべく所員一丸となり取り組むという説明があった。また収支予算書内訳表について説明があり、公益会計の基準を満足している旨の説明があった。続いて資金調達及び設備投資の見込みにつき説明があった。

これらの説明に基づき、議長から各理事の意見が徴された後、全員異議なく本件は可決承認された。

## 第2号議案 『理事の利益相反取引の承認』を求める件

理事の利益相反取引の承認を求める件について、成宮事務局長から次の説明があった。

本議案は、本研究所が2016年度から進めている新規業務を継続して進めるに当たり、2026年度も久保理事長が代表を務めるKBGTクボギヤテクノロジーズに対し、本研究所から以下の内容の業務委託を行うことに関し、利益相反取引の承認を求めるものである。

(KBGT クボギヤテクノロジーズへの業務委託が最適な理由)

KBGT クボギヤテクノロジーズの専門能力を活用し、且つ本研究所の施設も活用しながらコストパフォーマンスを発揮することがベストと判断されること。

(取引の重要事項)

取引内容 : 金属材料や機械部品の特性評価・解析並びに評価レポート作成、  
及び機械装置設計・エンジニアリング に関する請負業務

取引期間 : 2026年4月1日から1年間

取引価格 : 相当する業務請負の市場価格以下

但し、1年間の総取引金額は1,200万円を超えないものとする。

これらの説明に続き、議長の北野副理事長への交代、利害関係者である久保理事長の退場の後、北野議長から各理事の意見が徴され、残る出席理事全員異議なく本件は可決承認された。

## 8. 報告事項

議長の求めにより、下記3件の報告があった。

(1) 利益相反取引に関する重要な事実のご報告について成宮事務局長から報告された。

(2) 理事の辞任について

松岡理事・技監が、3月末で一身上の都合で辞任したいと申し出があり、業務執行役員で協議し、辞任を了承した。

(3) 職務執行状況報告(令和7年度第2回)

ここで、(3) 令和7年度第2回職務執行状況の報告については、別添の配布資料を元に説明があった。報告者はそれぞれ《全般運営》が久保理事長、北野副理事長、成宮常務理事《研究開発運営》が久保理事長、北野副理事長及び大原常務理事、大野理事《総務・工場運営》が成宮常務理事及び大原常務理事であった。

以上をもって、全ての議案の審議と報告が終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記の決議を明確にするため、定款第51条により、出席した理事長、副理事長、並びに監事が議事録署名人としてこれに署名押印する。

令和8年3月18日

公益財団法人応用科学研究所 令和7年度第3回理事会

議事録署名人 理事長 久保 愛三

議事録署名人 副理事長 北野 正雄

議事録署名人 監事 西 亨

議事録署名人 監事 村上 博保